

植物園整備検討に係る有識者懇話会(第3回)

〈テーマ〉

府立植物園整備に係るコンセプトと施策の方向性について

京 都 府
文化施設政策監
植物園

本日、議論いただきたいこと

◆ 京都府が考える整備に向けた考え方に関して

◆ 上記の考え方を踏まえた施策の具体的な方向性に関して



国内外の先進的な植物園における取組事例や利用者意見、職員ワーキング等を踏まえ、専門的な見地から御意見を伺いたい

第2回懇話会での主な意見

魅力向上

<主な意見>

- 入園者に偏りがあり、将来への発展を考えると若い世代、子どもにとって魅力あることが大切
- 京都植物園らしさを感じる統一感のあるデザインによるホスピタリティの提供等、民間視点も取り入れた新しい着想も必要
- 植物の面白さを知らない子どもたちが、また見に行きたいと思うような楽しみを提供することが大事
- 植物園の魅力と植物の魅力を整理して考えると面白い展開があるのではないか
- 京都をキーワードにし、植物と生物多様性、文化を発信する等ブランディングを磨くことで植物園の魅力が大きく更に向上する
- 樹齢100年の背景等、植物のストーリーがわかると植物への触れ合い方も変わってくるのではないか
- 夢のある魅力化は重要だが、運営も含めた持続可能な財政基盤を府民に説明する視点も重要
- 植物園のアクティビティを上げていく中で、入園料収入を含めて外部資金を獲得する仕組みを構築することは重要な視点
- 京都府立植物園がどうあるべきか、コンセプトをしっかりと考えるべき

学習・教育

<主な意見>

- 植物園に来て教えるのではなく、自主的に楽しみに来る施設である必要がある
- 幼児、小学生、中高生等、世代に応じた魅力を整理し、教育学習のつながりを検討していく必要がある
- 植物の魅力発信や、植物園の利活用の方策について、教育委員会とも連携して考えてもらいたい
- 知識は研究者の方が上だが、表現する这一点では学芸員の方がはるかに上で、教育普及活動を考えると学芸員は非常に大事
- 植物園のニーズは世界規模で考えると非常に高く、オープンな科学の場である視点で議論を進めて行ってもらいたい
- 京都周辺の全ての固有植物や貴重な日本の絶滅危惧種が見られる等、他にない魅力を付け加えていただけるといいのではないか
- 子どもからシニアまで、得たい学びに繋がる幅広いプログラムを提供して欲しい
- デジタルを応用し、来園できない人たちへ教育普及活動を助け、関心を持った人が植物園に行き、植物の面白さを発見するような相関関係を育ててもらいたい
- 植物園を育てるNPOのような方たち等と職員と一緒に働く環境を整備し、協力しながら学びの輪を広げてもらいたい

栽培、研究

<主な意見>

- 生きたものが目の前にある植物園は、生物を研究するためには、一番いいゲレンデであり、植物園は研究施設を持つべき
- 京都の植物の標本を備え、生物多様性、植物多様性の問題に対応する中核になっていく取組をしてもらいたい
- 外部の公的資金や科研費等をうまく引き出しながら、財源確保もしつつ取り組んでももらいたい
- 植物園のこれまでの栽培に関する創意工夫、技術継承は立派な研究である
- 専門的・学術的な研究成果を一般の人でもわかりやすい展示をする必要がある
- 京都にある植物を勉強している高校生の受け皿となるインターンシッププログラムの運用を検討してもらいたい
- これまで継承されてきた栽培技術が実践を重視しつつ理論的に体系化されることで、研究活動が広がるのではないか
- バックヤードは広ければよいということではなく、機能や実績が大事
- 研究という言葉、概念を咀嚼し、行政も含めて府立植物園としてどうあるべきなのかを今度の方向性に織り込んでもらいたい

府立植物園利用者からの主な意見（第2回懇話会以降の意見）

■意見聴取の状況（令和4年11月8日時点）

地元自治会等 6学区、幼稚園・保育園等 15園、小中高校等 10校、福祉施設等 10施設
幼稚園保護者ワークショップなど ※今後も継続して意見聴取を実施

全般的な植物園への御意見

- 絶滅危惧種や生態系を守る植物園であって欲しい
- 植物に関連する昆虫や魚等も併せて展示し、入園者に感激を提供できる見せ方を工夫してもらいたい
- 植物園の整備にあたっては、子供や母親が喜ぶ施設にして欲しい
- 園内の禁止事項が多く、禁止の理由もわからないため、親として非常に気を遣う施設の印象
- 無料入園者の対象区分等、入園料体系を見直しても良いのではないか

魅力向上、いこいの場への御意見

- 日陰がなく、夏は暑すぎる。日陰で休憩できる場所や、床から水が出る噴水等の水遊びができるエリアがあると夏場でも行きやすい
- 植物園のイベントが少雨決行できるような屋根があるとよい
- 大芝生地は子どもを手放しで遊ばすことができる良い環境
- 植物園は安全な環境であるからこそ、小学校で遠足の利用ができる
- 見所の紹介やスタンプラリーなど、もっと目的を持てるような仕掛けが園全体であるとよい
- 現在のガイドツアーは大人向けの内容であり、親子連れや子どもだけでも楽しめるような内容のツアーを開催して欲しい
- 温室は子どもと一緒に学習できる良い施設だが、汚い印象がある
- キノコ文庫はかわいく、屋外で本が読める貴重な施設だが、老朽化しており、本の更新や機能のリニューアルが必要
- 思いがけず長時間滞在するときや子どもがお腹を空かせたときに、ワゴンカー等の売店やカフェがあるとありがたい
- 子どもや高齢者の足を考えると、入口が増設されるとありがたい
- 遊具は何回か行くと飽きてくるが、園内の切り株をただ並べているだけの場所で子どもは何度も新鮮に遊んでいる

教育・学習機能の向上への御意見

- 絶滅危惧種の保全や歴史的に価値のある植物の保全など、大変興味深く、この取組みを子どもたちに紹介して欲しい
- 樹木はお互いに助け合っており、その姿を森の上から見られるとよい
- 植物の説明はあるが、難しすぎてよくわからず、見る気にならない
- 府立植物園が研究をして学べるようになると、近隣の小中高校に喜ばれるのではないかと
- 植物園には理科、国語、図工等で幅広く利用しており、植物園職員からの説明などは大変好評。このような取組を学習プログラムとして、設定し、多くの子どもたちが利用できるようすれば、よりすばらしいものになるのではないかと
- 植物園は理科だけでなく、図工や国語の教員も関係性がある
- 植物生態園は来園者に知られておらずもったいない
- どんぐりや松ぼっくり等、植物を用いた親子ワークショップや幼児対象ワークショップ等で多くのことが学べると嬉しい
- 園内に子どもが拾った葉っぱ等で工作ができる場所を設けて欲しい
- 動物園や水族館などの取組みと比べると、植物園は子どもたちに魅力的なコンテンツを提供できているか疑問
- 木育も植物園の魅力発信の切り口としてもよいのではないかと

- ・ これまでに合計6回の職員ワーキング等を実施（延べ参加人数109名）
- ・ 上記職員ワーキングに向け、各係において検討会議を随時実施
- ・ その他、温室係や若手職員を中心に計4日間、全国5か所の先進地視察を実施（延べ参加人数19名）

●植物園職員グループワーキング ※第2回懇話会において取組状況を報告

- ・ 植物園のあり方と植物園の運営をテーマにグループワーキングを実施
- ・ 計2日間実施（6月24日、7月6日、延べ参加人数33名）
- ・ 第2回懇話会資料「植物園職員が考える未来の植物園像」としてとりまとめ



●植物園先進地視察（温室、植物園機能向上等）

- ・ 9月14日～15日 水戸植物公園、神代植物公園、新宿御苑
- ・ 9月28日～29日 広島市植物公園、ときわミュージアム
- ・ 参加人数 延べ19名



●植物園整備検討プロジェクトチーム

- ・ 10月6日から原則毎週木曜日に実施しており、今後も継続して実施（計4回実施：10月末現在）
- ・ 参加人数 延べ76名
- ・ 有識者懇話会に向け、植物園のコンセプトや実施すべきソフトハードの取組、研究のあり方等について議論
→プロジェクトチームで出た意見等については、「植物園整備の考え方(P.7)」や「施策の具体的な方向性(P.8)」に反映

<主な意見>

- ・ 現温室はデザインに優れ、利用者から愛されているが、植物の管理がしにくく、多くの雨漏りが発生している。管理面や設備の老朽化等を考慮すると、新しい観覧温室はリニューアルより新築が望ましい
- ・ 植物多様性の保全は植物園が取組むべき課題であるが、取組を実施するために必要な体制確保が求められる
- ・ こども向け大人向けの植物に関する図書コーナーや常時の園芸相談等、複合的な機能を備えた諸室の整備が望まれる

京都府立植物園として行うべき研究とは

1. 植物多様性の解析と保全の研究を公的機関として使命感を持って取り組む。特に京都の植物について重点的に調査分析し、データを蓄積する
2. 希少な植物の栽培技術を蓄積することで、栽培手法の確立に努める
3. 植物園の有する知見により生息域外保全や希少植物の増殖を行い、データ分析や分類等については大学等と連携して実施する
4. 地域団体をはじめ、多様な主体と連携し、生物多様性及び自然環境の保全に取り組む

<研究概念図>

プロジェクト全体管理：植物園

植生調査

- 府内植物の植生調査
- 生育状況・生育環境の調査

植物園、大学

分析・整理

- 保全種リストの作成
- 生息地保全計画の作成
- 絶滅危惧種の指定

植物園、
京都府関連部局

収集・保存

- 対象植物の採取
- 標本整理
- 標本分類など各種情報の解析とデータベース化

植物園、大学

栽培保全

- 希少植物の育成手法の確立と生息域外保全の拡充
- 絶滅危惧種の増殖
- 自生地への復帰

植物園

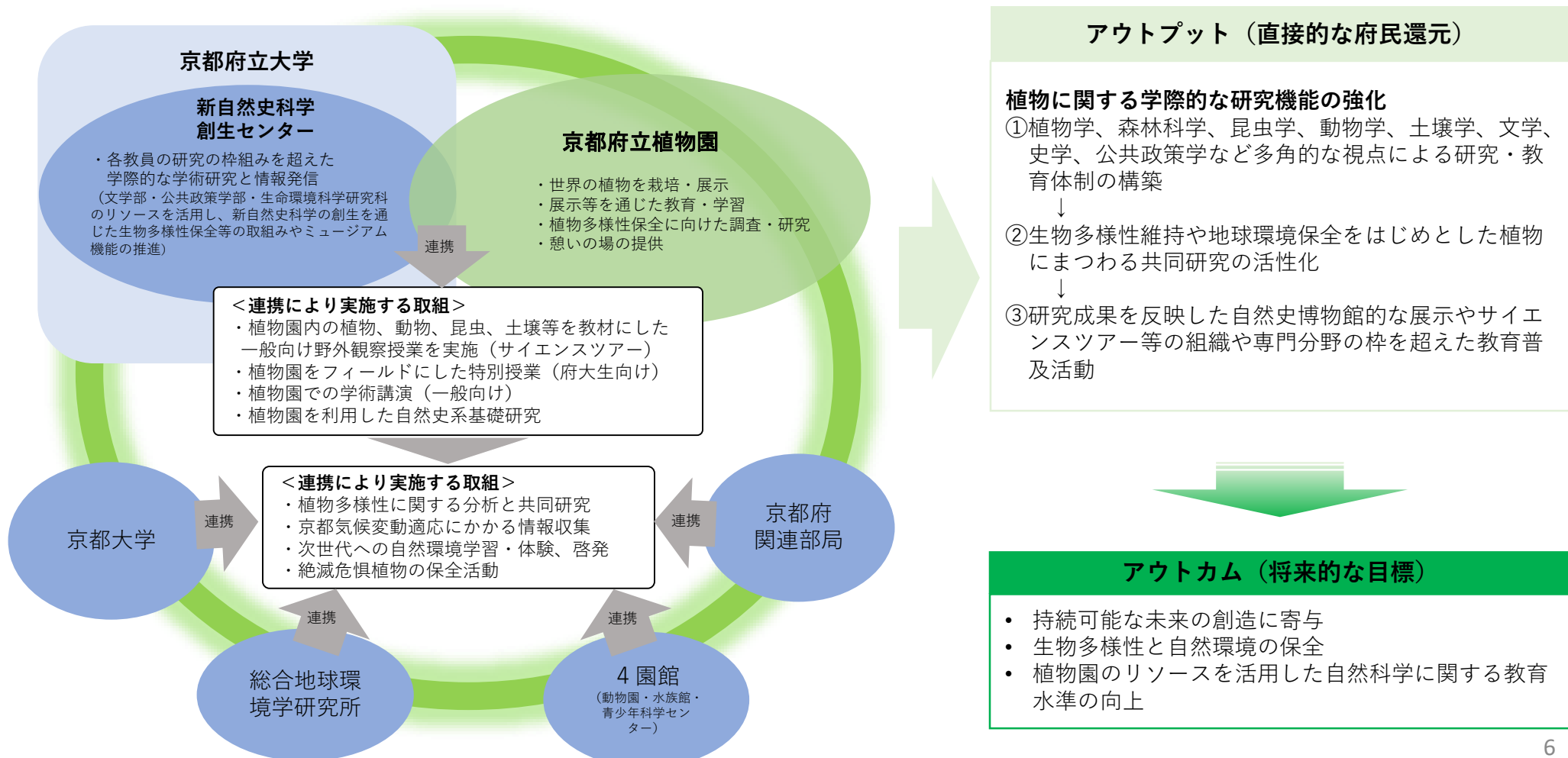
府民への還元

- 地球環境の悪化とともに進む生物多様性の喪失に対し、府域植物の植生状況を正確に把握し、京都の植物多様性保全に寄与
- 来園者や次代を担う子どもへの植物多様性、府域植物等に関する教育的還元、生涯学習支援、植物資料・研究フィールドを提供
- 蓄積した栽培技術を広く発信し、園芸文化の普及発展に寄与

京都府立植物園における学際的研究拠点機能のイメージ

目的

- 植物園と大学、研究機関等との連携により、植物に関する学際的な研究拠点として研究・教育機能を強化
- 植物園のハード・ソフト両面での取組により、将来の京都を担う子どもたちをはじめ幅広い世代が植物に触れながら自然環境や植物と人との関わりを学べる場を提供



京都府が考える府立植物園整備に向けた考え方

栽培

植物園が植物園であるための
根本機能

- 受け継がれてきた栽培技術を維持・発展させ、人材育成につなげる取組みを進める

研究

京都の植物多様性を守る学際的
研究拠点

- 大学等との連携により、植物園において栽培技術及び植物多様性保全に対する研究を進め、成果をわかりやすく発信する

学習 教育

(学びの場)

全ての来園者に植物を通じた
知的好奇心を育む

- 様々な世代が、年代・目的に応じた学びを選択できるオープンな科学の場を提供する
- デジタルを活用し、新しい手法により植物や植物園の魅力を伝えるとともに、来園できない方に対しても魅力を発信・普及する取組を行う

魅力

(いこいの場)

京都の街中で多様な植物に触れ
癒しを感じる空間

- 100年間培ってきた歴史を大切に、京都の植生や植物にまつわる京都の文化等を発信することで、府民が誇れる京都のシンボルとして役割を果たす
- 利用者目線を徹底し、誰もが利用しやすい、いこいの場を形成する



栽培技術を継承・発展させながら、植物多様性保全に関する研究機能を強化し、子どもたちをはじめ幅広い世代が、自然環境や植物と人との関わりについて楽しみながら学べる『生きた植物の博物館』を目指すべきではないか

植物園整備に向けた施策の具体的な方向性

課題

実施すべき取組 (ソフト事業等)

想定される ハード整備

栽培

- ベテラン技術者の大量退職を控え、若手職員等へ技術継承が必要な状況
- 栽培記録、植生配置等の台帳整備が不十分
- バックヤードの老朽化
- 栽培に要するコスト上昇、予算不足

- 優秀な人材の確保
- 学生インターンシップ
- バックヤードツアー、植物園の魅力発信
- デジタルを活用した技術継承
- 省エネ対策の検討

- 新しい栽培技術の発展を見据えたバックヤードの拡充・高度化
- 見せるバックヤードの整備
- 栽培用LED照明の導入

研究

- 府内絶滅危惧植物が増加傾向
- 栽培技術研究の情報発信が不十分
- 植物多様性の保全に関する研究に取り組む体制が未構築
- 府内の植生把握が不十分
- 新たな府内植物の標本を保管できる施設が未整備

- 大学等との連携体制の深化
- 地域ボランティア等と連携した府内自生地調査、植物採取
- 栽培研究に関する取組の見える化と府民向け情報発信
- 植物多様性の保全、研究フィールドとしての価値の向上
- 寄附金基金創設の検討

- 標本庫及び閲覧コーナーの整備
- 大森文庫や標本、研究成果の展示スペースの整備
- 研究者と職員が交流ができる場所の整備

学習教育

- 世代、ジャンルに沿った学習プログラム、デジタル化が未整備な状況
- 植物園の教育機能に対する認知度が低い
- オリエンテーション機能が未整備
- 子どもや若者の心に響く学習コンテンツ不足
- 観覧温室の老朽化および機能低下

- 学芸員的人材の採用
- 幅広い学習プログラムの作成
- 教育機関や福祉施設等との連携
- 植物に関する図書の充実
- 生物多様性学習に資する教育学習エリアの設置
- デジタルコンテンツの整備
- 子ども、親子向けワークショップ

- 常設展示室、特別展示室
- 観覧温室のリニューアル
- 鳥の目視点で植物が観察できる吊り橋（キャノピーウォーク）
- 子ども連れ等の幅広い世代がワークショップ等で学習できる場所の整備

魅力

- 来園者はシニア層が中心で偏っている
- 雨天時や夏・冬に来園者数が少ない
- 来園者向け施設の老朽化及び機能低下
- 多様なニーズに応えた魅力的な情報発信が不十分
- 若者、子育て世帯のニーズに応じた施設整備が不十分
- 利用者にとって敷居が高い施設

- 京都の植物や植物文化を展示
- デジタルを活用した魅力的な情報発信
- デザインの洗練化及びコンセプトの統一
- 植物を触れることができるエリアの設置
- 独創的で目を引く植物の展示
- 植物園の魅力向上に資するイベントや展示の実施

- ビジターセンター機能の設置
- 大屋根広場等の全天候型施設の整備
- 植物画等のアートギャラリーの設置
- トイレ、授乳室、休憩所等の来園者快適性向上に資する施設の更新、増設
- 植物園の魅力向上に資するカフェスペース等の整備
- インクルーシブデザインの視点に立った施設整備